

今期の学生IRニュースレターでは、皆さんに受検していただく心理アセスメント：BEVIについて解説します。履修登録前、学生プロフィールと共に受検していただくBEVI（Beliefs, Events, and Values Inventory）は、文部科学省の普及促進プロジェクトとして採択され、現在、国立大学を中心に53大学で採用されています。本学では、全国の大学に先駆けて2021年度より全学部生および大学院生を対象に導入しています。

## ■BEVIの位置付け

秋学期の学生プロフィールでは「就業力自己チェック」をしていただきます。「就業力」は、コミュニケーション力や課題解決力など、就く職業に関わらず社会に出て共通に必要な汎用能力を指します。冰山モデルで説明すると、就業力は自分で自覚しやすいスキル、いわば海面上に見えている氷山の一角です。海面下にはさらに大きな何かが隠れています。

BEVIは自分のものの考えかた、価値観、信念など海面下にある氷山の見えない部分の自覚を促すためのツールです。そうした潜在的な心理面を含め、自分自身を振り返る材料にさせていただきたい、というのがBEVI導入の意図です。心理面のアセスメントですので、受検を強制するのは適切ではないという判断で、任意受検にしていますが、BEVIの導入意図をお汲み取りの上、できるだけ多くの学

生の皆さんに受検していただければと考えています。

## ■心理アセスメント:BEVIとは

BEVIは1990年代初頭、米国の臨床心理学者Craig N. Shealy（Western Washington University教授）らによって開発されました。その後、2016年に広島大学・西谷元とCraig N. Shealyにより日本語版のBEVIが共同開発され、現在日本で広く利用されるに至っています。

BEVIの背景理論は、Equilintegration（EI）理論またはEIモデルと呼ばれるものです。EI理論は信念（Beliefs）、欲求（Needs）、自己（Self）の3つの要素から構成され、「信念」はEIモデルの基礎的な単位とされます。BEVIは受検者の潜在的な欲求や信念の集合体である価値観など自己の有り様を測定すると共に、発達プロセスにおける形成変数（民族性、ジェンダー、人生における出来事、教育の程度、宗教や政治の信条、経済状況など）に基づき信念の保持の度合いを分析します。BEVIの設問項目に、親の学歴等プライベートな質問があるのはそのためです。

なお、BEVIは心理測定学の適切な基準や手続き、テスト理論を踏まえて改定と検証を繰り返すことで信頼性を確保しています。現在は受検者の回答負担を軽減するため短縮版のBEVIが用いられていますが、短縮前のバージョンでは研究データの解析における信頼性を示す基準の1つであるクロンバックのアルファ係数（0.8以上が妥当とされる）は、0.8または0.9以上となりました。短縮版では、クロンバックのアルファ係数が0.7以下にならない範囲で共通で用いられる質問を整理し、185項目に削減しています。日本語版の開発に当たっては、日本語を母語とする翻訳者複数名によりこの短縮版を翻訳し、翻訳の差異を調整し、さらに別グループが英語に反訳した後、質問の表現が測定しようとしている尺度の意図と齟齬がないか、調整し確定させています。



**学士力、就業力**

自覚しやすい能力、スキル

**BEVI**

思考や行動の奥にある感情、動機、価値観、信念など

BEVIは他地域・他民族との比較研究を可能とするため、日本を含む143カ国、約1万件の多様なデータに基づき7回の因子分析を経て、全世界共通の質問にしています。しかし日本人受検者にとっては、日本以外の文化圏をベースにした、または宗教など日本人には馴染みのない質問項目や翻訳調の表現もあり、文化的背景によるバイアスがかかる可能性があることは否定できません。これは、多様な文化圏において共通で利用し比較可能にするために、致し方ない面でもあります。

### ■ BEVI受検結果

BEVIの受検には30分ほどかかりますので、早めに受検してください。なお、BEVI受検結果は、受検直後から閲覧できます。文章による説明に加えて、主要な項目のスコアも受検者に提供されるようになり、理解しやすくなりました。下表は、BEVIの17の尺度の概略をまとめたものです。あなたの受検結果を読む際に参考にしてください。なお、次のニュースレターでは、結果の読みかたについて解説します。

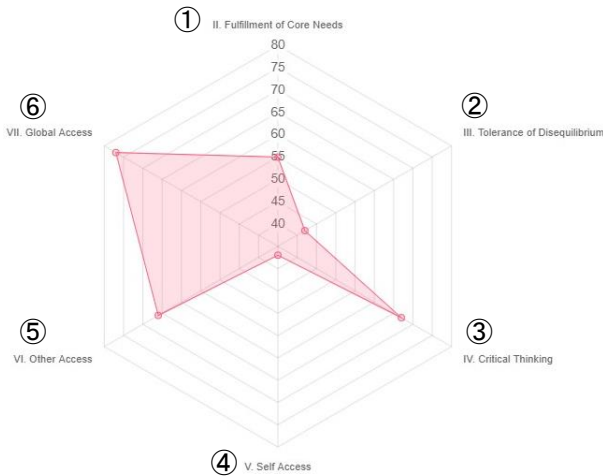
**BEVIの17の尺度の概要** (広島大学・西谷元先生より提供)

17の尺度	解説	7つの領域
1. Negative Life Events 人生におけるネガティブな出来事	子ども時代の困難な経験、両親・家族との軋轢、日常的な葛藤、これまでの人生への後悔など、今現在有している信念・思考や行動に影響する可能性のある出来事の 有無	I. 形成的変数
2. Needs Closure 欲求の抑圧	自分自身の欲求をそのまま素直に表現できない、固定観念が強い思考パターン、不合理的な信念	II. 中核的欲求の充足度
3. Needs Fulfillment 欲求の充足	自身の欲求が満たされてきたとの認識、自己・他者の経験、欲求また感情に対してオープン、自己、他者またより広い社会/世界に対する気遣い、思いやり	
4. Identity Diffusion アイデンティティの拡散	アイデンティティの確立が停滞/曖昧化、自分自身や将来に対し明確な答えが出せない/「悔やむ」感情、結婚、家族生活に関する辛い出来事	III. 不均衡の許容
5. Basic Openness 基本的な開放性	(自分自身の) 根底的な考え方、感情また欲求について、それらにオープンで正直である	
6. Self Certitude 自己に対する確信	強い意志、困難を理由とする弁明を許容できない、ポジティブ・シンキングを強調する、深い分析を好まない	IV. 批判的思考
7. Basic Determinism 決定論・必然論的傾向	差異、行動について簡単な説明を好む、人は変わらない、強い意志が生き残るとの確信、問題を抱えた生い立ち	
8. Socioemotional Convergence 社会情動的一致	自己、他者、世界に対してオープンであり、意識している、思慮深く、現実的、決断力がある、自分らしさを大切にしながらも弱者への配慮を忘れないなど、世界をオールオアナッシングでとらえない	V. 自己の理解・アクセス 自分自身や自分の考え、感情、欲求
9. Physical Resonance 身体的共鳴	身体的な欲求や感情に敏感、経験主義的、人間の本质、発達もたらす影響を評価	
10. Emotional Attunement 感情の調整	感情的、傷つきやすい、社交的、欲求不満、仲間意識が強い、感情表現に大切に する、家族とのつながりが親密	VI. 他者の理解・アクセス
11. Self Awareness 自己認識	内省的、自己の複雑性を受け入れる、人々の経験、状況の差異を大切に する、難しいまた議論のある考えや感情を許容する	
12. Meaning Quest 意味の探求	意味を模索する、人生のバランスを求め、柔軟、根気強い、感受性が高い、恵まれない人々への気遣い	VII. 世界の理解・アクセス
13. Religious Traditionalism 宗教的伝統主義	宗教的である、自己、行動、出来事を神・仏・霊的な力によるもの と考える、「来世」への傾斜	
14. Gender Traditionalism ジェンダー的伝統主義	男性と女性はあるべき姿に作られている、伝統的/単純なジェンダー論と性別役割を好む	VII. 世界の理解・アクセス
15. Sociocultural Openness 社会文化的オープン性	文化、経済、教育、環境、ジェンダー、国際関係、政治など、幅広い分野の行動、政策また実践について進歩的、開放的である	
16. Ecological Resonance 生態との共鳴	環境問題/サステナビリティに関心が高い、地球、自然界の運命に関心がある	VII. 世界の理解・アクセス
17. Global Resonance 世界との共鳴	異なる個人、グループ、言語、文化について学ぶこと/出会うことに興味がある、グローバルな関わりを求めている	

# 受検結果を読み込み、 自己理解を深める

## ■ 受験結果を確認しよう

BEVIの結果は受検直後からWeb上で確認できます。まずは文章による説明を熟読し、自分自身がどのような傾向にあるかを理解しましょう。加えて、昨年度より主要な領域のスコアも受検者に提供されるようになりました（下図参照）。それらについて解説しますので、参考にしてください。



### ① 中心欲求の充足度

尺度3（前回ニュースレター参照）の幼児期からこれまで、自身の欲求が満たされてきた認識（主観）の度合いを表します。他者の経験、欲求また感情に対してオープンで、自己、他者またより広い社会や世界に対する気遣い、思いやりに繋がります。全学の分布では、10～40の方が多いです。

### ② 不均衡の許容度

尺度5、6から導き出されたスコアです。異質な/困難な出来事に直面した際の柔軟性、レジリエンス（回復力）を表します。全学の分布ではスコアが20～60の方がやや多いですが、10～90まで幅広く散らばっていて多様です。

### ③ 批判的・論理的思考力

尺度7、8から導き出されたスコアで、行動の動機として、ものごとの因果関係や意義などを深く考える度合いを表します。スコアは10～30の方、つまりあまり深く考えない傾向の人が多いです。

### ④ 自分自身や自分の考え、欲求

尺度10、11から導き出されたスコアで、自分の欲求や感情を深く考える度合いを示します。男性は10～50、女性はスコアは30～60の方が多く、性差により傾向が分かります。ただし、分布は散らばっていますので個人差も大きいです。

### ⑤ 他者への思いや感情

尺度13～15から導き出されたスコアで、自分と異なる主義、信条をどのようにとらえるかを示します。許容度が高い人はスコアが高く出ます。全学のスコアは散らばっており、十人十色です。

### ⑥ 世界への思いや感情

尺度16、17から導き出されたスコアで、自然環境や、自分と異なる文化や社会を尊重する度合いを示します。スコアは10～30の方が多いです。なお、⑤⑥はグローバルに活躍できる人材に求められる資質として注目されています。日本人は低い傾向にあり、大学教育の課題でもあります。

## ■ 受検結果を読み込んで自己理解を深めよう

上述の説明では、全学のスコア分布を目安として入れました。スコアの高低は能力差ではなく、該当する資質の傾向の《度合い》を示します。該当する資質の思考や態度、行動への現れかたはさまざまです。たとえば、③の尺度7（差異、行動について簡単な説明を好む傾向）はよい方向に作用すれば決断力があり、素早く適切な判断ができます。よくない方に作用すると、ものごとを深く考えずに短絡的に決めつけしまいがちになります。各尺度の傾向やスコアは、単純に優劣で解釈できないことに留意してください。

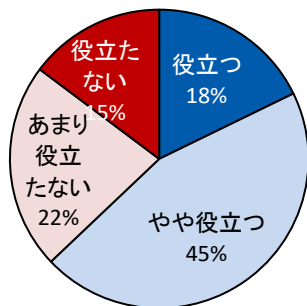
加えて、各尺度の傾向は相互に関連しています。たとえば⑤の他者への配慮がある人は、さらに広い⑥世界に対しても関心があるでしょう。受検結果の説明文とスコアを照らし合わせ、かつ各尺度の関連を確認することで、自己理解を深められます。結果をじっくり読みこんで、今後の学生生活や、就活の際の自己PRなどに役立ててください。

## 心理アセスメント：BEVIを学生はどう受け止めたか

BEVIを導入して今年で3年目になります。過去2年の受検率は50%くらいです。ではBEVIを受検した学生の皆さんは、どのような感想や気づきを得たのでしょうか。2021年度のアンケート調査結果から、受検者のご意見を紹介すると共に、いただいた疑問にお答えします。

### ■ BEVIの役立ち度

BEVIの受検は役立ったか、4件法で訊いたところ、下図の通り、63%が肯定的に受け止めました。



BEVIはあなたにとって役立ったか

自由記述から全般的な意見を集約すると、自己理解ツールとして有効性を認識した学生が多いです。

- 日頃意識しない自分自身の内面やものの考えかたを、多角的に知ることができた
- 世界標準で結果が示され、敬遠しがちな政治や宗教などを含め客観的に振り返る機会になった
- 就職活動の際、自己分析や卒業後の人生を考える参考になる

一方、履修登録前の多忙な時期に受検するのは負担が大きいという声も多く寄せられました。確かにその通りなのですが、皆さんに一齐に受検していただく機会は、履修登録の時しかありません。大変ですが、自己理解のために有効なツールですので、受検してください。以降、Q&A形式で自由記述に寄せられた主な疑問にお答えします。

### Q:日本人には違和感のある質問が散見される

BEVIの設問は「欧米のキリスト教的価値観に基づいて設計されたようで」日本人には適さないとの鋭い指摘をいただきました。確かに、日本人には

馴染みのない質問項目も散見され、違和感を抱く人もいるでしょう。これは、他地域・他民族との比較研究を可能とするため、日本を含む143カ国、約1万件の多様なデータに基づき、全世界共通の質問にしていることによります。多様な文化圏において共通で利用し比較可能にするためのトレードオフとご了承ください。

### Q:翻訳調なのが気になる

設問や測定結果の説明がやや翻訳調なのは否めません。その理由は上記と同じです。共通性を担保するため意識は最小限に留め、質問の日本語表現と質問の意図とに齟齬がないか、日英の翻訳と反訳（日本語に翻訳したものを英語に翻訳しなおす）により確定させています。

### Q:プライベートな質問に抵抗を感じる

BEVIの設問には、性別や両親の学歴、政治、宗教など個人的な質問があり、抵抗を感じた人もいます。これらの質問は、受検者の価値観や信念などに影響を与える可能性のある要素であり、たとえば男女別の集計など、統計処理のためのみに用いられます。大学側は受検者個人の回答は閲覧できませんので、回答にご協力ください。

### Q:自己認識と測定結果が合致せず信用できない

自己認識と測定結果が合致しないケースでは、学生の反応は二つに分かれました。自分が認識していない一面に気づくことができた肯定的に捉え、アンケートでも「役に立つ」と回答した人がいる一方で、自己認識と一致しないのでBEVIは信頼できないと判断し、アンケートでも「役に立たない」と回答した人もいます。

BEVIは様々な文化圏の回答を標本として統計的な検証を重ね、信頼性の高いツールにしています。自己認識と異なる点は、BEVIの測定ではこのような結果になった、とまずは受け止めてみてください。私たちの心には様々な側面があり、矛盾するような面もあります。自覚していないが自分にはそんな一面があるのかもしてないと、内省のきっかけにさせていただきたいです。

# グローバルに活躍できる人の要件が二極化している

BEVI受検者個々人の結果レポートは、本人だけが閲覧できます。主催者である大学側には個人の結果は開示されず、代わりに学部や学年などのグループ単位で、17の尺度ごとの平均値や分布などが開示されます。BEVIは受検者それぞれの自己理解に役立つと共に、大学側としては学生の皆さんの全般的な傾向を把握できますので、教育改善の基礎資料としても役立っています。

本ニュースレター31、32号では、性差による特徴の違いについて紹介しました。今回はグローバルに活躍できる人材の要件に関わる尺度に着目して、見えてきた課題について解説します。

## ■尺度17：異文化への関心、受容性の分布

BEVIの17の尺度（本ニュースレター38号参照）のうち、海外で活躍したり、国内の外国人と共生するために必要な異文化間能力に相当する尺度として注目されているのは、尺度17（異文化への関心、受容性）です。図1は、尺度17の全学の男女別分布です。なお、BEVIのスコアは、世界143カ国・1万件のデータから民族、文化、言語などの多様性に配慮した標準群を設定して1～100%の分布を定め、受検者の位置（Decile）を示しています。たとえば、Decile 4は、標準群の分布の下位から数え40%の位置であることを表します。

男女とも似た分布ですが、平均値では男性30、女性37で、女性のほうがやや高く、女性のほうが異文化受容の準備ができていない人がやや多いです。コロナ渦前、全国の大学の中で海外留学する学生

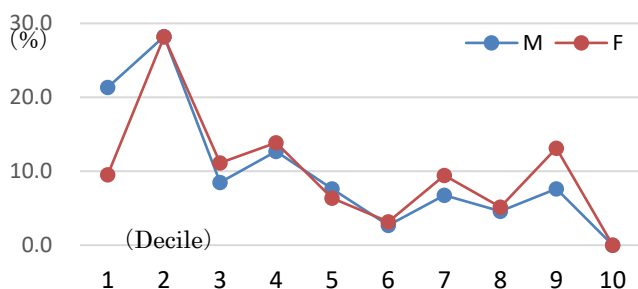


図1：尺度17の全学男女別の分布

の約6割は女性が占めていました。この異文化受容性の度合いとの関連が窺えます。

## ■異文化間能力は二極化傾向にある

BEVIの他の尺度は頂点が1つの山形、いわゆる正規分布に近い折れ線グラフになるのですが、尺度17はユニークな傾向を示します。図2は、本学の全学年と広島大学の1年生の尺度17の分布グラフです。Decile 2を頂点に大きな山を形成し、Decile 3以降で下降していますが、Decile 7～9にも小規模の山が見られますね。つまり、異文化受容の準備度が低い、または無関心の人が多くを占めるが、逆に意識の高い人も少なからず存在するという事です。この二極化とも言える傾向は性差に関わりません。広範に実施した2大学が類似の分布を示していますので、これは日本人大学生に共通する傾向と言えそうです。

注) 広島大学のデータは、同大・西谷元先生提供

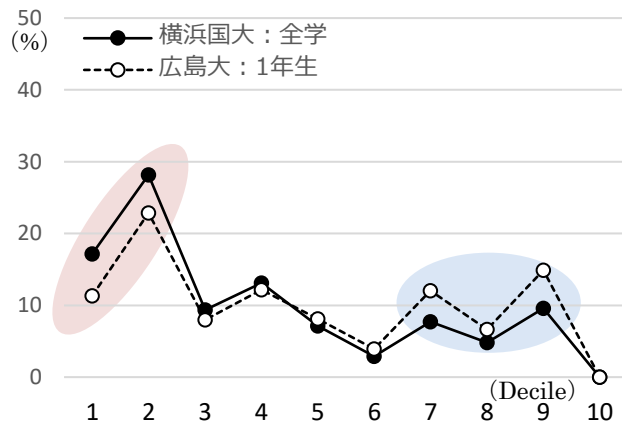


図2：尺度17の2大学の分布

## ■異文化理解に関する行動タイプは3つ？

筆者は全学教育科目において、海外研修を伴わない座学の異文化理解の入門科目「グローバル化と日本人」を秋学期に開講しています。次頁の図3は、全学と当該科目の履修生（27名）の分布のグラフです。当該科目履修者のDecile1～3の合計は本学1～4年生55%に対し37%、Decile 7～9は同22%に対し37%であり、全学平均と比べ異文化

理解に関心が高い学生が履修していることがわかります。図3には、琉球大学の海外研修を含むプログラムの履修生20名のスコア分布も入れてあります。Decile 7~9が60%を占め、プログラム履修前から異文化を受容する準備ができていた学生が多く履修していると推測できます。

注) 琉球大学のデータ：東矢光代，當間千夏．(2019)．世界の捉え方にみる学習者の特性とクラス・ダイナミクス：BEVIの結果に基づく分析，琉球大学国際地域創造学部国際言語文化プログラム，23-45.

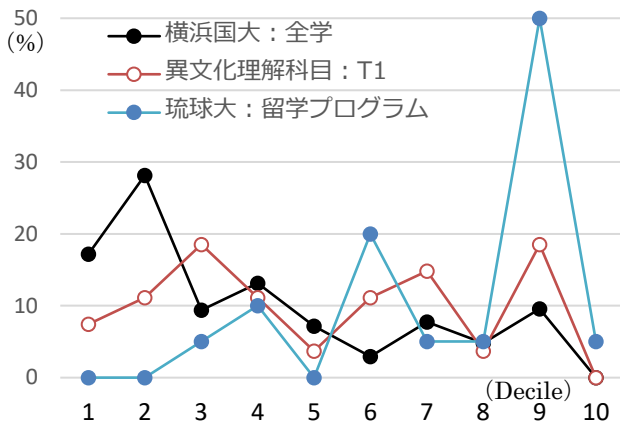


図3：尺度17の3者比較

これらから類推すると、異文化の受容性に関して学生の皆さんは、3つの層に分かれそうです。

- ① Decile1~3 (本学では55%)：異文化に関心が薄い多数派層
- ② Decile4~6 (23%)：異文化に関心があるものの、積極的に外国人と交流したり、海外研修等の参加には至らない層
- ③ Decile 7~ (22%)：異文化に関心があり海外研修等に参加する/参加したいと考える層

■海外に出ていだけグローバル化ではない

外国人と交わるのはせいぜい観光旅行のときだけで、海外駐在したり、海外で暮らすつもりもないので自分にはあまり関係ない、とお思いの読者もいらっしゃることでしょう。しかし、グローバル化は日本人が海外に出ていく、アウトバウンドのグローバル化に限りません。外国人が日本社会に入ってくるインバウンドのグローバル化も好むと好まざるかにかかわらず、さざ波のように着実に進行しています。

国内に暮らしていても、日常生活で外国人と接する機会は多く、コンビニや飲食店の従業員は外国人が目立ちます。皆さんが将来就職するであろう企業内においても、外国人従業員は増えています。異文化の人々との共生・協働が必要なのは、留学や将来海外赴任を希望する人々に限らないのです。

■異文化間能力を高めよう

留学などの海外体験は、異文化適応力を高めるために効果的な手段になります。そうは言っても、実際に留学したり海外研修プログラムに参加するのはハードルが高い、と思う方が大勢いらっしゃることでしょう。ではどうすればよいのでしょうか。

前述の異文化理解科目「グローバル化と日本人」は、在留外国人との共生課題や海外での協働課題を学び、ケーススタディやグループ・ディスカッションで実践する科目です。図4は同科目の開講時(T1)と終講時(T2)の尺度17の分布です。終講時にはDecile 1~3がいなくなり、全体的に高いDecileに向上しています。海外での実体験を経なくても、科目の内容次第で一定の効果があがることの一例です。

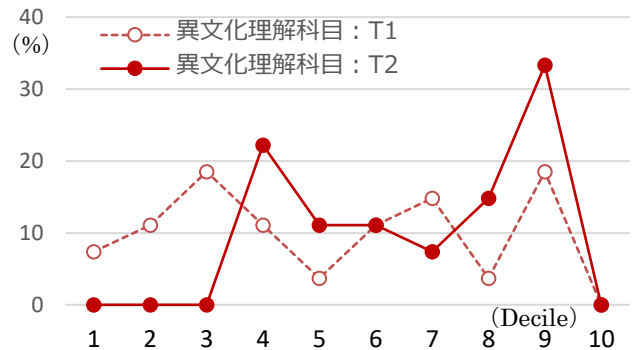


図4：異文化理解科目の開講時・終講時の比較

本学の全学教育科目には、グローバルに活躍できる人材の育成を目的にした科目群があります。まずは、そうした科目を履修してみるのが第1歩ではないでしょうか。高年次履修科目に指定されているものが多いですが、1年生も履修できる科目もあります。前述の「グローバル化と日本人」もその1つです。最後のほうの頁にあり目立ちませんが、「全学教育科目の履修案内」を確認してみてください。